

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開  
⑪ 公開特許公報 (A) 昭58-224818

⑤Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 60 N 1/06  
A 47 C 7/54

識別記号 庁内整理番号  
C 8008-3B  
7309-3B

④公開 昭和58年(1983)12月27日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑥自動車用シート

⑦特 願 昭57-107238  
⑧出 願 昭57(1982)6月22日  
⑨發明者 宮島宏次

川崎市幸区北加瀬622日本発条  
株式会社川崎工場内

⑩出願人 日本発条株式会社  
横浜市磯子区新磯子町1番地  
⑪代理人 弁理士 鈴江武彦 外2名

明細書

1. 発明の名称

自動車用シート

2. 特許請求の範囲

シートフレームの左右両側部の少なくともいずれか一方の側部に平行リンク機構を介してサポート部材を昇降自在に取付けるとともに、上記平行リンク機構には上記サポート部材を所望の高さに固定するロック機構を取り付いたことを特徴とする自動車用シート。

3. 発明の詳細な説明

本発明はサポート部材を有した自動車用シートに関する。

自動車用シートの安楽性を向上させるために、シートの側部にアームレストを設けたものが知られている。従来のこの種のシートは、例えば第1図に示されるようにアームレスト<sup>a</sup>を背凭れ部<sup>b</sup>などから引出せるようにしたもののが一般的であるが、このタイプでは着座者の体格や好みなどに合わせてアームレスト<sup>a</sup>の高さを自由

に調節できないという欠点があった。

本発明は上記事情にもとづきなされたものでその目的とするところは、高さ調節可能なアームレストとしての機能と、着座者のホールド性を向上させるためのサイドサポートとしての機能を兼用できるサポート部材を備えた自動車用シートを提供することにある。

すなわち本発明は、シートフレームの左右両側部の少なくともいずれか一方の側部に平行リンク機構を介してサポート部材を昇降自在に取付けるとともに、上記平行リンク機構には上記サポート部材を所望の高さに固定するロック機構を取り付けた自動車用シートである。

以下本発明の一実施例について第2図ないし第5図を参照して説明する。第2図において図中<sup>1</sup>は座部、<sup>2</sup>は背凭れ部であって、上記座部<sup>1</sup>の内部には第3図に示すシートフレーム<sup>3</sup>が設けられている。またシートフレーム<sup>3</sup>の左右両側には、それぞれ前後一対のリンク<sup>5a</sup>、<sup>5b</sup>、<sup>6a</sup>、<sup>6b</sup>がピン<sup>7</sup>、<sup>8</sup>を中心として回

動自在に設けられている。そして前側のリンク 5 a, 6 a は連結パイプ 9 によって互いに連結されて一体に回動し、また後側のリンク 5 b, 6 b は連結パイプ 10 によって互いに連結されて一体に回動するようになっている。

そして一方の側部のリンク 5 a, 5 b にはピン 11, 12 (第4図に示す) によって一方のサポート部材 15 のフレーム 15 a が枢着され、また他方の側部のリンク 6 a, 6 b にはピン 13, 14 によって他方のサポート部材 16 のフレーム 16 a が枢着されている。すなわち、シートフレーム 3 の左右に、互いに連動する平行リンク機構 5, 6 が構成され、各サポート部材 15, 16 が同じ高さで昇降するようになっている。

また、一方の平行リンク機構 5 にロック機構 20 が取付けられている。このロック機構 20 は、シリング 21 にロッド 22 を軸線方向に搬動自在に嵌挿し、シリング 21 内に設けた摩擦部材によってロッド 22 を任意の位置に無段階

16 を座部 1 の上面よりも多少上昇させた状態に固定すれば、カープ走行時などにおいて着座者の腰部を安定に保持するためのサイドサポートとしても機能でき、いわゆるホールド性が向上するものである。

なお上記実施例では連結パイプ 9, 10 によって左右の平行リンク機構 5, 6 が連動するように構成したが、例えば第6図に他の実施例として示したように、双方の平行リンク機構 5, 6 が各自独立して動くように構成してもよい。この場合、双方の平行リンク機構 5, 6 にロック機構を用いるようにする。

また本発明は、いずれか一方の側部 (例えばドア側) にのみ昇降自在なサポート部材と平行リンク機構、ロック機構を設け、他方の側部に固定式のアームレストを設けるようにしてもよい。このようにドア側のサポート部材を昇降自在とすれば乗り降りする際などにおいてサポート部材が邪魔になることがない。また、反ドア側 (インナー側) にのみサポート部材と平行リ

ンク機構を設けるようにしても本発明の所期の目的は達成し得る。

で固定できるようにしたものである。そしてシリング 21 をピン 23 によってシートフレーム 3 に枢着し、またロッド 22 の先端をピン 24 によって前側のリンク 5 a に枢着してある。そしてロック解除レバー 25 を操作することによって、シリング 21 に対するロッド 22 の固定を解除できるようになっている。従ってロックを解除してサポート部材 15, 16 を上下させることにより、第4図に2点鎖線で示す上昇位置から、実線で示す降下位置まで所望の高さに調節することができる。

以上のように構成された本実施例は、第2図に示されるようにサポート部材 15, 16 を上昇させた状態ではアームレストとして使用でき、高さも自由に調整できる。また、不使用時には第5図に示すようにサポート部材 15, 16 を座部 1 とほぼ同一高さとなる位置まで降下せねばよく、このような格納状態にすれば乗り降りの際などにサポート部材 15, 16 が邪魔になることがない。また、サポート部材 15,

シングル機構を設けるようにしても本発明の所期の目的は達成し得る。

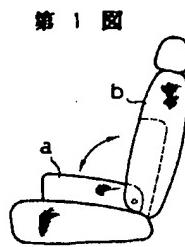
本発明は前記したように、平行リンク機構とロック機構とを用いてサポート部材を昇降可能に設けたものであり、このサポート部材を着座者の体格や好みなどに合わせて高さを自由に調整できるアームレストとして使用できるとともに、サポート部材を適当な高さに調節することにより、カープ走行時などにおいて着座者のホールド性を良くするためのサイドサポートとしても使用できるという多様な機能をもつ自動車用シートを提供できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

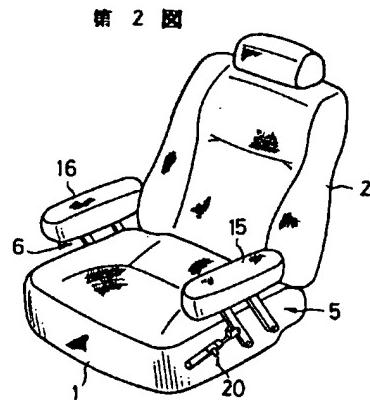
第1図は従来のアームレスト付シートの一例を示す側面図、第2図ないし第5図は本発明の一実施例を示し、第2図はシートの斜視図、第3図はフレーム部分を示す斜視図、第4図は側面図、第5図はサポート部材を降下させた状態の斜視図、第6図は本発明の他の実施例を示す斜視図である。

3 … シートフレーム、5, 6 … 平行リンク機構、15, 16 … サポート部材、20 … ロック機構。

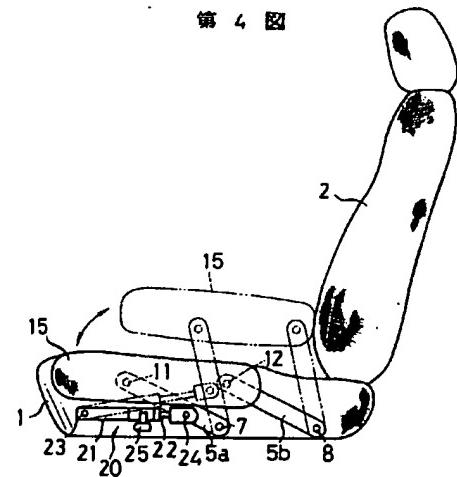
出願人代理人 弁理士 鈴 江 武 彦



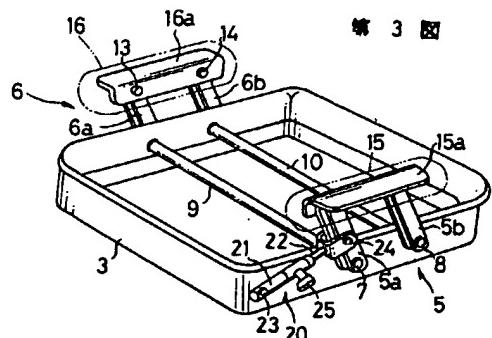
第1図



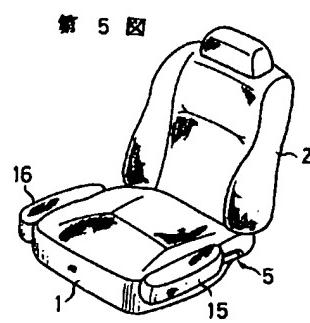
第2図



第4図



第3図



第5図



第6図